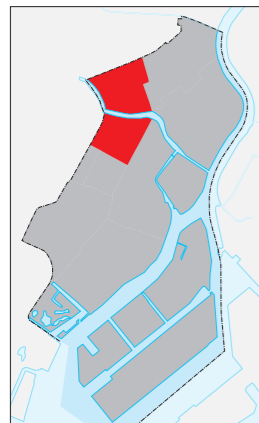


A 現在の町なみ



日本橋本石町一～四丁目、日本橋室町一～四丁目
日本橋本町一～四丁目、日本橋一～三丁目、
八重洲一丁目

このエリアは、日本橋を中心に、日本の商業と経済の中心地。現在も三越や高島屋など日本を代表するデパートや老舗が並び、ショッピングと観光の人でにぎわう。1947(昭和22)年に八重洲通りより北側の日本橋区と南側の京橋区が合併して中央区となったため、日本橋区にあった町の頭に「日本橋」をつけて、日本橋区の歴史を残した。



このエリアは
赤い部分。

見どころには●印を、
重要文化財には★印を
つけています。



日本橋本石町

日本の金融政策を担う中央銀行「日本銀行」がある町。日本銀行は江戸時代に金座(→p.26)があった場所に建っている。

江戸時代には本石町という町で、現在の江戸通りに沿って東西に一丁目～四丁目まで並んでいた。1932(昭和7)年に周辺にあった本銀町、本町などの一部と合併して、外堀通り沿いに南北に連なる町になった。

日本橋室町

この辺りは江戸時代から商業の中心地だ。現在は再開発計画が進行中で、伝統ある老舗と新しくできたビルやお店が共存している。中央通りをはさんで三井本館とコレド室町が向き合う。

日本橋本町

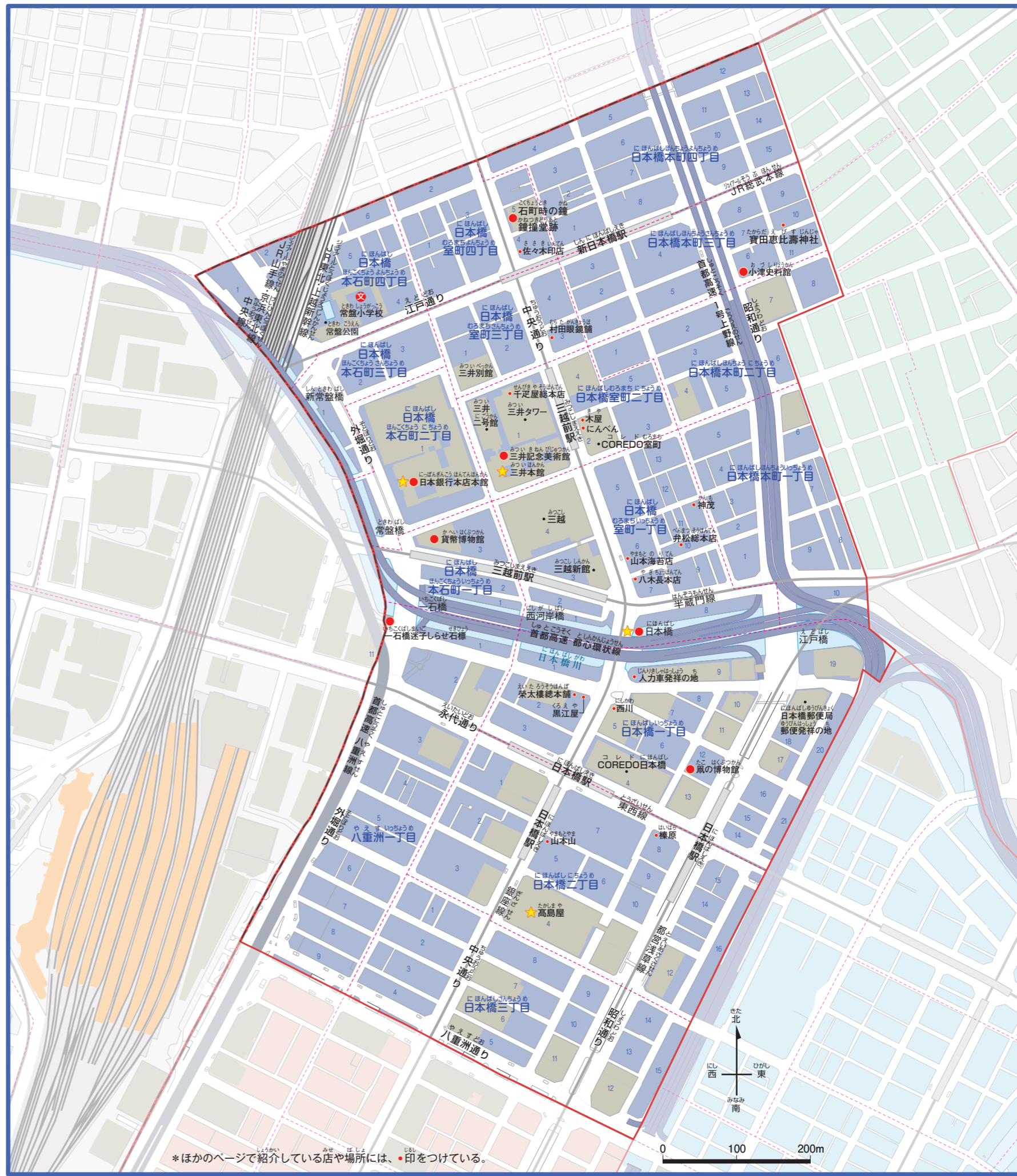
老舗の飲食店が軒を連ねている。江戸時代から薬問屋が多かったことから、現在も製薬会社が多い。江戸時代には本町という町で、本町通り(→p.148)に沿って連なっていたが、今は昭和通り沿いの町になっている。

日本橋

中央通りの東側にコレド日本橋と高島屋があり、オフィスビルも多い。現在、大きな再開発工事が進められていて、ショッピングとビジネスの町としてさらなる発展を目指している。江戸時代には日本橋という町名はなく、町の名前になったのは1973(昭和48)年のこと。

八重洲一丁目

東京駅のすぐとなり位置し、飲食店やオフィスビルが建ち並ぶ。町名は江戸時代に、現在の千代田区丸の内通りに屋敷があったオランダ人の商人ヤン・ヨーステンの和名「耶揚子」に由来する。町名に採用されたのは明治時代になってからだ。はじめは千代田区の町名だったが、1929(昭和4)年に丸の内と改名され、八重洲の名は消滅。その後1954(昭和29)年に八重洲口周辺の町が再編成され、八重洲と名づけられた。



*ほかのページで紹介している店や場所には、●印をつけている。